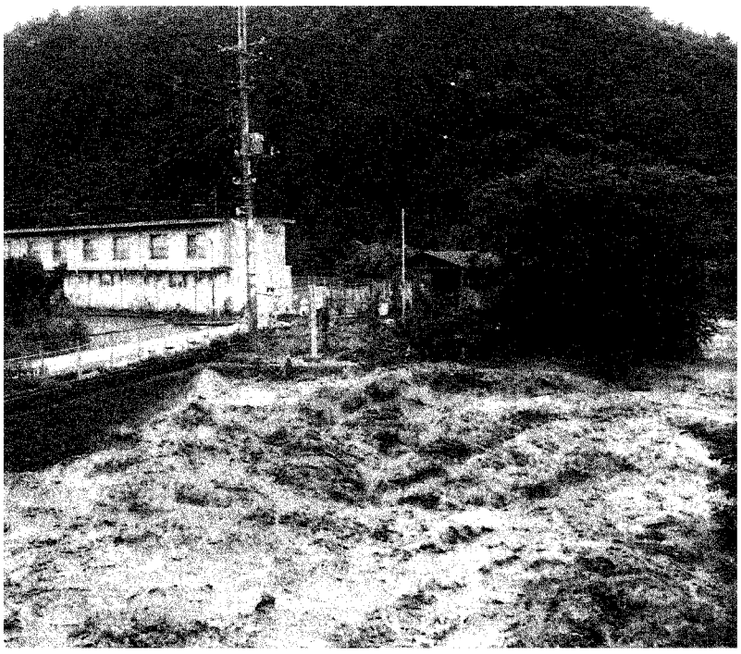
# 天災は忘れた頃



## 水害から身を守ろう

日本は四季の変化に富んだ国です。それだけに、梅雨前線の停滞や台風の上陸などがあり、しばしばわたしたちの生命や財産を奪い、大きなつめ跡を残します。

とくに夏は、集中豪雨や台風による災害が多い季節です。こうした被害を少なくするために、正しい知識を身に付け、落ち着いて行動できるようにしたいものです。

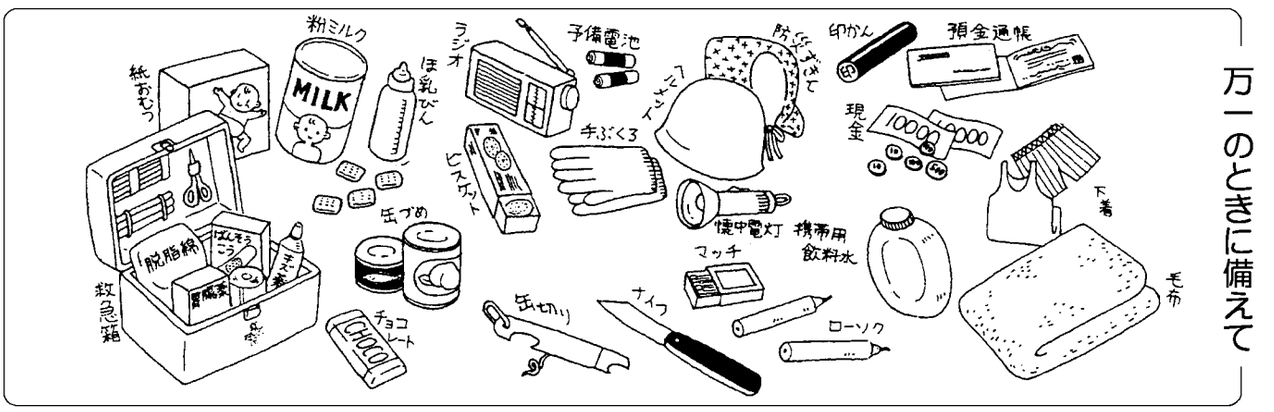
日本は地理的に、冷たい空気を育てる大陸と暖かく湿った空気を育てる海洋にはさまれています。そのため、日本上空では寒・暖両気流の接触によって、前線や低気圧が発生しやすく、しばしば日本各地に、集中豪雨による土砂災害などをもたらします。

集中豪雨は、短時間に局地的な大雨を降らすものです。昭和五十七年七月、長崎県では集中豪雨により、死者・行方不明者が二百九十九人にものぼりました。一時間に五十ミリを超す雨量が予想されたとき、大雨警報がだされますが、このときは一時間に百二十八ミリの大雨が降り、わずか三時間の間に、長崎の七月の平均雨量（三百十四ミリ）を上回りました。

集中豪雨の特徴は、強い雨の降り始めから災害発生までの時間がごく短いことです。地形的に災害の発生しやすい地域では、強い雨が降ってきたら厳重な警戒が必要です。大雨警報や大雨情報には十分注意し、集中豪雨などの大雨災害に対する心構えを、日ごろからしておきましょう。

### １ミリの雨量ってどのくらい？

天気予報を聞いたりしていると、よく「雨量」という言葉を耳にします。雨量とは、文字通り地上に降った雨の量のことです。測定の仕方は、直径20センチの円筒を地上に置き、その中にたまった雨水の深さを、ミリメートル単位ではかります。

雨量１ミリというと少ないと感じる人が意外に多いようです。ところが、33平方メートル（10坪）の庭に、１ミリの雨に相当する水をまこうとすると、18リットルのポリタンクで２本分の水が必要です。ですから、集中豪雨などで降る100ミリ、200ミリといった雨は、膨大な水の量ということがわかるでしょう。

### 万一のときに備えて